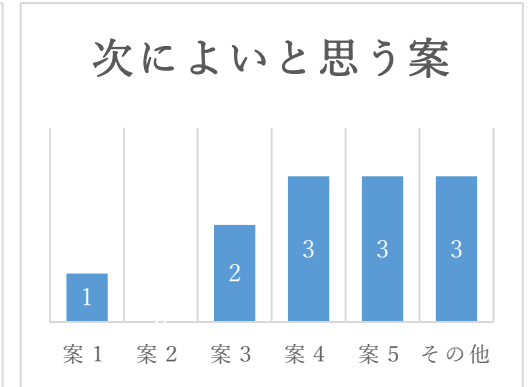
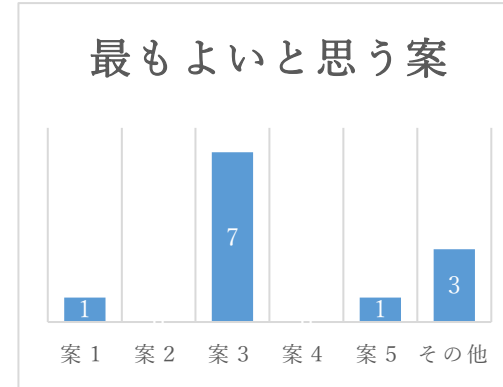


基本理念・基本方針について 委員意見一覧 (五十音順)

(前回資料1「第3章 庁舎整備の基本方針」)

○基本理念について (案1～案5)

- 案1 人・歴史・自然がつながる富田林のゲートウェイ
- 案2 人・歴史・自然がつながる富田林シティホール
- 案3 人・自然・歴史を次世代につなぐ富田林の創生拠点
- 案4 富田林の歴史・自然をあしたへ紡ぐみんなの居場所となる庁舎
- 案5 歴史と自然に恵まれた富田林～人とまちが元気になる明日の創生拠点～



○選定理由やご意見・ご質問

委員	選定理由やご意見
A 委員	<p>最もよい案 (回答なし) 次によい案 (回答なし)</p> <p>富田林市新庁舎は 人と自然, 歴史・文化を明日へ拓く交流・創造拠点 (総合ビジョンは、「ひと、自然、歴史」がキーワードですが、「文化」を加えています。地域社会全体を示すには、人の営みが歴史・自然の中で文化を創造し社会を発展させてきたのでは? 市民の交流と行政の創造)</p>
B 委員	<p>最もよい案 (案3) 次によい案 (案1)</p> <p>同じような意味であれば、理念はシンプルなものが良いと思う。 シティホールは市庁舎そのものではないか。</p>
C 委員	<p>最もよい案 (案3) 次によい案 (案4)</p> <p>基本理念として案3、4を選定した理由は、富田林のかけがえのない財産(歴史・自然)を次世代のために紡ぎ活かすまちづくりの拠点、居場所(みんなの)ということばが解り易くよいと思いました。また、庁舎検討委員会意見の「全体としての意見 ○本来庁舎という・・・」ご意見は私も同感で盛り沢山のテーマパーク化しないかなと、近年想定されている自然災害時の対応や利用しやすさにまず軸足を置き、その上で「まちづくり」「居場所」を考えてゆくことなのかなあとと思います。</p>

D 委員	最もよい案（案3+4） 次によい案（案4+3）
	人・歴史・自然を次世代につなぐ みんなが集える庁舎 ※あえて富田林という文字を入れずにシンプルにしました。
E 委員	最もよい案（案1） 次によい案（案3）
	全般的に基本計画原案は防災性、機能性など自明の価値に則った提案であり妥当とはいえませんが、まちづくりの戦略の拠点としての記述が弱いように感じています（そこを指摘するのが本委員会の役割でもあるかとも思います）。 基本理念に求められることとして、戦略的な記述、具体的には上位計画に示されている本市の目指す将来像の視点、「市民参加と協働」「人の流れを生む魅力の発信と愛着の醸成」…といった視点が表れているのが「つなぐ」「つなげる」という表記であろうかと思えます。また、あとに続く「基本方針1：わがまち富田林・まちづくりの顔となる」への対応としては、「ゲートウェイ」「創生拠点」といった表記になろうかと思えます。 以上のように、案1、3の表記がまちづくりへの意志を示す戦略的な記述となっているのではないかと思います。 ただ、「ゲートウェイ」という表記がよいかどうかは他の委員の意見も聞いてみたいと思います。「高輪ゲートウェイ」駅名があまり評判よくなかったこともあり、同様の名称をつけるのは若干のためらいがあります。一方で、市民ワークショップによって提案された特徴的なフレーズであり、「創生拠点」よりも「ゲートウェイ」という用語の方がつながり、人の流れ、魅力の発信を想起させる用語でありますので、どちらかを選ぶとすれば「ゲートウェイ」ではないではないかと考えました。
F 委員	最もよい案（案3） 次によい案（案5）
	案1及び案2については、いわゆる横文字が使用されており、なじみにくい印象を持ちました。特に、案2について、特段の理由なく「シティホール」という市役所の英語を用いることには疑問なしとしえませんが。 案の4については、「みんなの居場所となる庁舎」とあるところ、「みんな」とは少なくとも市民を含むものと解する余地があると思われれます。そもそも庁舎は公用財産ですので、市民の居場所という位置づけは庁舎の概念になじまないと思います。 そうすると、残るのは案3及び案5ですが、案3の方が次世代に豊かな富田林の自然、歴史を承継していくというイメージを前に出しており、昨今重要性が指摘されているSDGsとの一定の関連性もうかがえます。そこで、案3を最もよい案としました。
G 委員	最もよい案（案5） 次によい案（案3）
	5、3 わかりやすい
H 委員	最もよい案（案3） 次によい案（案5）
	まちづくりの拠点となることが重要かと思えます。
I 委員	最もよい案（回答なし） 次によい案（回答なし）
	案1～案5からは選ばせませんでした。案4と案5から提案1と提案2としたいと思えます。

	<p>・提案1「富田林の歴史・自然をあしたへ紡ぐひらかれた庁舎」 案4の「居場所」とすると市民の積極的な活動の場がイメージできません。「ひらかれた」は市民が主体的に庁舎を活用してまちづくりに参加していくというイメージがわいてくると思います。</p> <p>または、</p> <p>・提案2「歴史と自然に恵まれた富田林～人とまちが元気になるひらかれた庁舎～」 案5の「創生拠点」は言葉に馴染みがなくかたすぎると思います。</p>
J 委員	<p>最もよい案（案3） 次により案（案4）</p> <p>案3は親しみやすいです。 案4は同じくわかりやすく親しみやすいです。 案1、案2もよいのですが、横文字に抵抗がある人もいるかと思います。</p>
K 委員	<p>最もよい案（案3） 次により案（案4）</p> <p>・古い歴史が明らかになっている富田林市は子どもも大人にとっても学びの場と言えます。（部落問題も含めて） ・人と自然と産業、労働がとけあった街づくりの中心が市役所の役割と思います。本格的な資料館の建設は別途建設いただくとして、上記のことの一部分が展示された常設スペースが作れないでしょうか。</p>
L 委員	<p>最もよい案（案3） 次により案（案5）</p> <p>庁舎の役割は時代の要請に応えられるものでなければならない。ゲートウェイやシティホールという言葉は、庁舎のハード面的な役割と捉えられやすい。</p> <p>案3において、写真下（寺内町や石川の写真）の「新庁舎は～」という三行の説明はシンプルながら説得力がある。案5も同様に市民にとってどんな町づくりかという理念が明確である。ただし、庁内検討委員会で「文言が長い」という意見があったようにインパクトに欠ける。庁内検討委員会で「創生」という言葉への意見があったが、次世代と見据えた新庁舎という点では「ここからスタート」という考え方も出来るので、「創生」でもあまり違和感を感じない。</p>